

令和8年度 第1回 学校運営協議会（コミュニティー・スクール）記録

開催日時	令和8年6月30日（火） 10時00分 ～ 11時30分	
会 場	北海道函館養護学校 視聴覚室	
出席者数	8名	4名（学校）
出席者名	・ NPO 法人 日本障害者・高齢者生活支援機構理事長 ・ 函館市旭岡町内会長 ・ 北海道函館養護学校 PTA 会長 ・ 函館市立旭岡小学校長 ・ 函館市立旭岡中学校教頭 ・ 社会福祉法人侑愛会つくしんぼ学級園長 ・ 函館市福祉事務所函館療育・自立支援センター長 ・ 北海道教育大学教育学部函館校教授	・ 増田 望（校長） ・ 嶺岸 美幸（教頭） ・ 小林 範嗣（事務長） ・ 青山 幸仁（総務部）
内 容	発表者	記 録
1 開会の言葉	嶺岸	
2 日程説明、連絡	嶺岸	
3 校長挨拶	増田	
4 委員自己紹介		
5 会長・副会長選任		
6 議事	嶺岸	（1）基本方針の確認 ・ 資料に基づき、学校運営協議会の目的や設置規則などの基本事項が確認された。 （2）令和8年度 学校経営方針について ・ ビジョン：「笑顔あふれる学校へ」を掲げ、子供・保護者・地域・教職員のすべてが「ウェルビーイング」を高められる居場所づくりを目指す。 ・ 重点目標：人とのかかわる力の育成、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。これらを支える土台として、安心・安全、開かれた学校、働きやすい職場（心理的安全性の確保）の3本柱を強化する。 ・ いじめ防止：現在認知件数は0件だが、PDCA サイクルに基づき組織的に未然防止・早期発見に努めている。 （3）教育活動の振り返り（note による発信） ・ 公式 note を活用した、視覚的でタイムリーな情報発信について紹介された。 ・ 主な活動：ALT との交流授業、旭岡小学校との合同オリエンテーリング、高等部のモルック大会、寄宿舎のオリジナル鯉のぼり制作、消防署と連携した避難訓練（放水体験等）などの様子が報告された。 ・ 地域資源の活用：工事で体育館が使えない状況を逆手に取り、近隣のお店での買い物やバックヤード見学など、校外学習を積極的に取り入れている。 （4）意見交流（重点事項の具体策） ①PTA 衣服譲渡会の余剰品の活用： ・ サイズ等の関係で残った衣類を地域で有効活用する案が示された。

		・金森赤レンガ倉庫で開催されるバザーへの出店について提案があり、観光客や外国人も訪れる場所で無料での提供について助言があった。 ・中央病院相談室では、急な着替えが必要な児童への活用が考えられることから、調整を進めたいとの申し出があった。 ②イエローレシートキャンペーン ・職員が制作したPR動画を視聴するとともに、推進ポスターを配付し、イオン湯川店でレシート投函への協力を呼びかけた。 ・レシート合計額の1%相当の寄付金は、長期保存水や乾電池などの防災備蓄品、音の出る絵本の購入に活用しており、今後も継続した協力を依頼した。 ③CSバンドの結成案： ・「笑顔あふれる学校づくり」の一環として、委員と教職員によるバンドを結成し、2月の発表会や音楽の授業で披露する案が示された。 ・増田校長がドラムを担当予定。楽器経験のある委員の参加や、歌・鈴などでの協力を求めた。
ご意見、ご感想		・学校経営方針に「心理的安全性」が盛り込まれていることを高く評価する意見があった。年齢や立場に関わらず新しいアイデアを出し合える環境が、近年の運動会やあさひ祭などの充実につながっているとの感想が述べられた。 ・教職員が一人一人の児童生徒に寄り添う教育に理解を示すとともに、自身が所属するロータリークラブを通じた支援の可能性が紹介された。 ・子供を中心とした学校運営やウェルビーイングの考え方に共感が見られ、保護者の不安に寄り添う学校の姿勢の大切さや、旭岡小学校との交流が児童生徒にとって貴重な体験となったことへの感謝が述べられた。 ・地域の養護学校、小・中学校、商店が連携した学習活動の意義が述べられた。また、中学校リコーダー部との交流など、今後の地域連携への期待が示された。 ・体育館が使用できない状況を前向きに捉え、校外学習を充実させている取組を評価する意見があった。新しい環境との出会いが児童生徒の成長につながることへの期待が述べられた。 ・特別支援教育を取り巻く国際的な動向に触れながら、日本が目指す質の高い特別支援教育の実践を継続していくことへの期待が示され、函館養護学校がインクルーシブ教育の実践モデルとなることを願う意見があった。
7 次回の予定等について	嶺岸	・第2回は11月19日（木）10：00～予定している。
8 閉会の言葉	嶺岸	
9 校内見学・授業参観		・小学部、中学部、高等部の学習の様子を見学していただいた。